

# 1 . 調査の概要

---

## 1.1 目的

1995年兵庫県南部地震以降、諸機関による活断層調査等が全国的に展開され、滋賀県域の活断層についても新たな知見が得られている。平成15年6月11日には、国の地震調査研究推進本部(地震調査委員会長期評価部会)から、琵琶湖西岸断層帯の将来活動について、断層帯全体が1つの区間として活動し最大でマグニチュード7.8程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内の地震発生確率が0.09 - 9%で「今後30年の間に地震が発生する可能性が我が国の主な活断層の中では高いグループに属する」という見解が示された。また、今後30年以内に襲来する可能性が極めて高いと予測される東南海・南海地震についても、同様に検討が進められている。

本調査は、このような背景から、琵琶湖西岸断層帯等による地震動を精度高く予測・評価し、発生する被害を想定して現行の地域防災計画・震災対策編の見直しや県民や防災関係機関と情報を共有し地震防災対策に万全を期すための基礎資料とすることを目的とする。

## 1.2 調査内容

### (1) 想定地震

琵琶湖西岸断層帯による地震

花折断層による地震

東南海・南海地震

( については2ヵ年計画の調査で対象とし、平成15年度調査では地震動評価は行わない)

### (2) 対象地域

滋賀県全域

### (3) 調査項目

震源断層モデルの設定

経験的グリーン関数法による強震観測地点の地震動評価

常時微動アレー探査による地盤構造調査

ボーリング調査資料の収集・整理

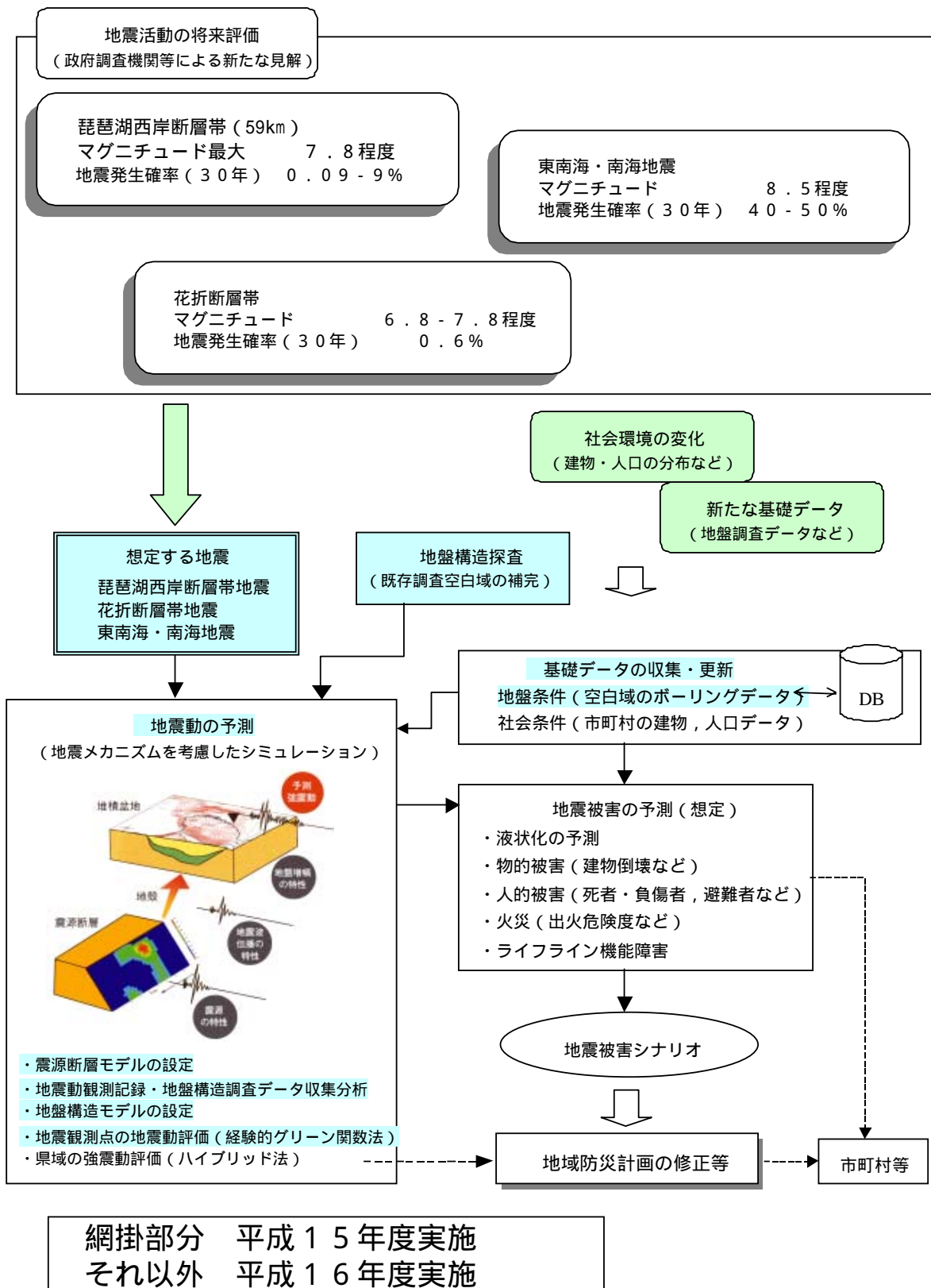


図 1-1 地震被害予測調査計画フロー